自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

17×1/1/1/1/2 (7×1/1/10) (7×1/1/10)					
事業所番号	0170501993				
法人名	有限会社ライフアート				
事業所名	グループホーム福寿荘Ⅱ 大地ユニット				
所在地	札幌市白石区北郷4条12丁目3-35				
自己評価作成日	令和元年8月11日	評価結果市町村受理日	令和元年11月13日		

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action kouhyou detail 022 kiho 基本情報リンク先URL n=true&JigvosvoCd=0170501993-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

62 な支援により、安心して暮らせている

(参考項目:28)

	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	令和元年9月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症緩和ケアの理念のもとに、終末期ケアを専門に行っている。終末期であって も、その人の持つ力を十分につかい、自分で歩くこと・トイレで排泄すること・最期までロ から食べることを大切にし、その人が『生ききる』支援を行っている。特に、最期までロ から食べる支援については、摂食・嚥下障害があっても、食べやすくおいしい調理のエ 夫とともに、体幹保持機能が失われる終末期の方の椅子での座位保持の方法につい てチームで取り組みを行っている。また、最期まで安心して暮らせるために、医療連携 を取りながら、必要に応じて専門医への受診や往診ができるよう体制を整えている。 地域の方々と日常的に交流があり、ホームの外周りや庭木の手入れを行ってくれたり、 緊急災害時には支援してもらえる関係・体制作りができている。

	75 P		「検したうえで、成果について自己評価します		取り組みの成果	
	項目	↓該当するものに〇印		項目	↓該	当するものに〇印
	聯号は、利用者の用いは際い、英コーナの充力 も	○ 1. ほぼ全ての利用者の		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求	0	1. ほぼ全ての家族と
E 6	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	2. 利用者の2/3くらいの	63	めていることをよく聴いており、信頼関係ができ		2. 家族の2/3くらいと
36	個心でいる (参考項目:23,24,25)	3. 利用者の1/3くらいの	- 03	ている		3. 家族の1/3くらいと
	(多号項日:23,24,23)	4. ほとんど掴んでいない		(参考項目:9,10,19)		4. ほとんどできていない
	진미국 L 했음 년 - 소리 - 고리 기계 - 국내 국 년	O 1. 毎日ある				1. ほぼ毎日のように
-7	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある	2. 数日に1回程度ある		通いの場やグループホームに馴染みの人や地	0	2. 数日に1回程度
0 /	のの (参考項目: 18,38)	3. たまにある	04	域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2.20)		3. たまに
	(多号項日:10,36)	4. ほとんどない		(多有項目: 2,20)		4. ほとんどない
		○ 1. ほぼ全ての利用者が		運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	0	1. 大いに増えている
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
วช		3. 利用者の1/3くらいが	- 65			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない				4. 全くいない
	ション・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・	○ 1. ほぼ全ての利用者が		職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	0	1. ほぼ全ての職員が
E 0	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
59	情や安かみられている (参考項目:36,37)	3. 利用者の1/3くらいが	- 00			3. 職員の1/3くらいが
	(多号項日:30,37)	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
		1. ほぼ全ての利用者が		職員から見て、利用者はサービスにおおむね満	0	1. ほぼ全ての利用者が
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ 2. 利用者の2/3くらいが	67			2. 利用者の2/3くらいが
00	(参考項目:49)	3. 利用者の1/3くらいが	6/	足していると思う		3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
	ション・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・	O 1. ほぼ全ての利用者が		贈号から日で、利田老の字状体はサーバコにか	0	1. ほぼ全ての家族等が
C 1	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	2. 利用者の2/3くらいが	60	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお		2. 家族等の2/3くらいが
וסו	- 適こせている (参考項目:30,31)	3. 利用者の1/3くらいが	68	68 おむね満足していると思う		3. 家族等の1/3くらいが
	(沙方央口.30,31/	4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
	71 m * ()	○ 1. ほぼ全ての利用者が				
	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟	2. 利用者の2/3くらいが	1			

2. 利用者の2/3くらいが

3. 利用者の1/3くらいが

4. ほとんどいない

自己評価及び外部評価結果

自己評	外部評	項目	自己評価	外部	評価
評	評価	X =	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.	I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理 念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して 実践につなげている	一人を大切に・支えあう心・安心して暮らせる社会づく りを法人理念とし、一人一人の意志を尊重し、その人 らしく生活できることを目標に日々取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流 している	町内会へ加入し、町内会行事にできる限り参加している。又、散歩時、通勤時など、隣近所の方々に積極的に挨拶する等、地域の一員としての意識を高め、気軽に交流できることに努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて 活かしている	2か月に一回実施している運営推進会議で、町内会の 方々とホームでの取り組みやケアの実施、又、通勤時 等見かけた状況(高齢者が一人で不安そうにしている 等)を町内の方々、包括スタッフと情報提供・共有して いる。		
4		価への取り組み状況等について報告や話し合いを 行い、そこでの意見をサービス向上に活かしてい	日常的な取り組みや評価への取り組み改善等、その 状況に関して報告し、話し合いながら質の向上を目指 す機会としている。又、避難訓練へ参加いただき、緊 急時の協力体制を作っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所 の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝え ながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催のグループホーム管理者会議や研修、在宅ケ ア連絡会に参加し、連携を図れるようにしている。		
6	5	〇身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型 サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防 サービス指定基準における禁止の対象となる具体 的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含 めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はせず、センサーで対応。ホーム入口には チャイムをつけ、自由な出入りを行い、出入りの際に は必ず確認している。また、薬剤による活動の制限等 が生じない様、主治医・スタッフ等で情報交換・アセス メントを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について 学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での 虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防 止に努めている	社外研修への積極的参加及び、通達を確認しながら 職員への周知を行っている。又、研修内容を伝達し意 識付けを行い、社内研修で学習し、防止の徹底を図っ ている。		

自己評価	外部評	項目	自己評価	外部	評価
評価	評価		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8			制度の理解が出来るよう、社内及び社外の研修で学ぶ機会を積極的に持ち、入居者の状況に適切に対応できるよう、制度を活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や 家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行 い理解・納得を図っている	日常的にも疑問や不安があれば、その理解や解消に 努め、入院や退去等その都度話し合いを行い、理解・ 納得を得られるよう努めている。		
	6	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並 びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に 反映させている	定期的な家族会の開催で、ご家族より出された意見をスタッフに周知し、運営推進会議で外部の方々にもお知らせしている。又、家族連絡ノートを活用し、気軽に意見や要望を寄せてもらっている。又、入居者の状態から意思や意向を捉えることは難しいが、表情・目の動きなど細かな観察で思いをしっかり受け止め、支援を行っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議を開催し、又、社内研修、面談を行い意 見や提案を聞くように努め、日常的にもスタッフノート を活用している。また、日々の申し送りでも意見や提案 を聞くようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	定期的なキャリアパス、面談、スタッフの自己改善計画書などを活用し、自分たちでやりがい等が持てる職場環境・条件整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際 と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の 確保や、働きながらトレーニングしていくことを進め ている	毎月社内研修を行い、又、社外の研修にも積極的な参加を行っている。研修報告や面談で、職員一人一人の力量や実際のケアを把握しOJTを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく 取り組みをしている	全国組織のネットワークを築いており、相互間の研修 を共同して実施し、人材育成やケアの質の向上を図っ ている。		

自 外 部 評	項目	自己評価	外部	評価
評 評 価 価	i	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心	と信頼に向けた関係づくりと支援			
	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、 本人の安心を確保するための関係づくりに努めて	入居される生活の場をできる限り見ていただける様 に、ホームに出向いていただくことも行っている。		
	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っ ていること、不安なこと、要望等に耳を傾けなが ら、関係づくりに努めている	同上、御家族とも十分に話し合えるよう努めている。		
'' /	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたらまず、今何の支援を必要としてるのかを話し合い、緊急性の有無を確認し、他サービス利用 も踏まえた対応をしている。		
	〇本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者から学びを得ることは多々あり、職員はその入 居者に感謝・尊敬の気持ちを持ちながら接している。		
	えていく関係を築いている	家族や職員の話も交えながら、入居者自身を中心とした関係作りに努めている。入居者自身にご家族の話をしたり、その時の入居者の様子を御家族に伝えている。又、終末期の状態であっても、家族が食事や入浴介助に携われるようにしている。		
	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が直接思いを伝えられないことが多く、家族を通じて働きかけてもらうなど支援し、一人一人の状態にあった方法を家族と相談しながら進めている。昔の写真を見てもらったり、ホームで撮った写真はいつでも見れるように、一人一人のアルバムを作っている。		
	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	本人の状態や周囲の環境に応じ、他者と交わったり職員が個別に対応するなど、一人で孤立することがないよう努めている。特に職員が介入して入居者同士が顔を合わせるよう、場面を積極的に作っている。		

自己評	部	項目	自己評価	外部	評価
評価	評価	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	/	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の 経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までの関係はこれからも継続することを伝え、気軽 に立ち寄ってもらえるよう働きかけている。		
		カ人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメン	· F		
23	9	〇思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	家族からも情報を収集し、本人の立場に立ったケアプランの立案、実践、評価を通して、本人の思いや意向を捉える努力をしてる。		
24	/	〇これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用し、これまでの生活を家族からも 伺えるよう働きかけている。又、来訪された御家族と話 す中でも、昔好きだった事等、本人について伺うようにしている。		
25		〇暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	センター方式の利用、又、日常的な申し送りや記録から、一人一人の日々の様子を職員全員で総合的に把握するよう努めている。		
26		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方に ついて、本人、家族、必要な関係者と話し合い、そ れぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した 介護計画を作成している	チーム・家族・本人(難しい場合は意向)を含めて協同で作成し、期間に応じて見直している。又、本人に変化が生じた時には、その都度対応の検討・ケアプランの修正を行っている。		
27	/	〇個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいた実践を日々記録しており、その結果をプランの見直しに繋げていく努力をしている。		
28	/	〇一人ひとりを支えるための事業所の多機能化本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療との連携(協力病院との連携や専門医への受診)。又、速やかに往診を依頼し、診察を受けられる環境を作っている。		
29		〇地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握 し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな 暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域消防団と協同での防火訓練、訪問美容やマッサージ、クリーニング等のサービスの利用を行っている。地域の店(自転車屋、新聞店)ともつながり、外からの情報を入居者に伝えたり、外出時の車イスの整備などを行い、入居者にプラスになる様、利用している。		
30		〇かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得 が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きな がら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の定期往診があり、その他、入居者の状態変化があれば、連絡を取り、往診していただいている。又、希望や必要に応じて専門医への受診の援助を行っている。		

自己評	外部評	項目	自己評価	外部	評価
評価	評価	- A L	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	/		事業所に非常勤ではあるが看護師がおり、日常の健康管理や助言、対応を行い支援していると共に、協力病院との連携を日常的に行っている。		
32		〇入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、 また、できるだけ早期に退院できるように、病院関 係者との情報交換や相談に努めている。又は、そ うした場合に備えて病院関係者との関係づくりを 行っている。	早期退院を第一に相談し、必要な情報を交換共有しつつ、入院中も安心して過ごせるように配慮し、支援している。		
33		段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所	入居時に終末期に関しての在り方について説明と同意をとっている。さらに、状態に応じ、早い段階から、かかりつけ医、経営者、管理者、看護師と家族で随時話し合いの場を設け、その都度方針を確認し合っている。		
34	1 /	〇急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職 員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行 い、実践力を身に付けている	対応マニュアルに沿って実践している。場面場面での ケアの具体的方法や視点を確認している。		
35			年2回、地域の消防署と連携し、防火訓練を実施し、地域住民とも連携をとり、入居者も訓練に参加し、日常的に緊急時避難の具体的方法を身に着けている。 又、運営推進会議で消防職員から防災について話してもらい防災意識を高めるよう努めている。		
		カ人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36		○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを 損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ、入浴時など他者の目に触れない様、最新の注意を払うと共に、排泄の有無は記号化し、他者の前ではトイレ等の言葉を用いないようにし、本人のプライドを傷つけない様にしている。		
37	/	〇利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	すべてにおいて自己決定は難しいが、表情やしぐさから気持ちを読み取ったり、おやつや衣服を選択してもらえるように複数用意したりと、可能な限り本人の意思を確認しながら支援するように努めている。		
38			一人一人の睡眠や覚醒のリズムを把握し、そのリズムを基本に生活の組み立てを行っている。又、本人のペースを尊重しつつ、体力や状態に合わせた生活の組み立ても考え支援している。		
39	/	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	お化粧をしたり、訪問美容を利用し、一人一人がその 人らしい身だしなみやオシャレができるよう支援してい る。又、その日に着る衣服を複数用意し、自身で選ん でもらえるようにもしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部	評価
評価	評価	χ ц	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	13	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	好みのものをメニューに取り入れ、箸やスプーンなど 自ら食べられる工夫をしている。又、盛り付けも美味し そうにし、目で見て何かわかるように調理することで食 べる楽しみが継続する様支援している。又、職員は一 緒に食事し、入居者の好みを把握する為、スタッフ間 で情報共有している。ご家族が持ってきてくれた物を 摂ることもある。常に煮豆を常備している。その時の体 調によって、食べる物の形状、量の調整も行ってい る。		
41		〇栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態やカ、習慣に応 じた支援をしている	摂取量、水分量をしっかりと把握し、チームで情報共有しながら、必要な時に必要なものを、しかつり摂れるよう対応してる。ぜり一を常に3種類用意する等、形状や硬さを工夫したり、嚥下状態によって個別メニューを用意することもある。		
42		〇口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの航空状態や本人の力に応じた航空ケアをしている	入居者の状態に合わせた方法で支援している(口腔ケア用ガーゼ、スポンジの使用等)。又、歯科医からのケアの方法を伝達、実施している。歯科往診時に口腔ケアの評価をいただき、常に技術の向上も行っている。		
43		の力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレで の排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや排泄メカニズムをしっかり理解し、トイレでの排泄を支援している。又、排泄サインを見逃さず、トイレでの排泄が集中して気持ちよくできるように、声掛けも極力少なくするように努めている。		
44	/		可能な限り、自分の足で歩く様に支援し、飲食物に関しては、ヨーグルトやオリゴ糖を用いたり、寒天ゼリーを食べる等し、水分量に配慮するよう努めている。内服薬(下剤)は極力中止し、食物繊維(ファイバー)を使用し、排便を整える取り組みを行っている。		
45		〇入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を 楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決 めてしまわずに、個々にそった支援をしている	心身状態を把握し、配慮しながら実施している。又、本人の 意向は捉え難いが、納得して心地よい入浴ができるよう支援 している。一人一人の状況に合わせて、午前や午後と入浴時 間を変えている。		
46		〇安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援 している	居室で本人の好きな音楽をかけ休息をとったり、リビングで一緒に過ごしながら休息をとるなど、一人一人の 状態に合った方法や環境を把握し対応している。		
47		〇服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用 法や用量について理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている	服薬の重要性をしっかりと理解し、効能と副作用についてチームで確認し、その変化の有無をしっかり把握できるよう努めている。		
48	/	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一 人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、 楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外気に触れたり外を眺めたりする時間や、好みの音楽を聴くなど、暮らしの中で自然にできる支援を行っている。又、本人の状態や覚醒状況応じて、リビングで過ごしてもらっている。		

自己	外部評価	項目	自己評価	外部	評価
評価			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日や、入居者に状態に合わせて、外の空気を吸ったり風に当たるなどの支援もしている。又、外出できない時に縁側やテラスを活用し、外気やお日様に当たる工夫をしている。		
50	/	〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望やカに応じて、お金を所持したり使えるように支援している	実際にお金を使うことはないが、本人の安心につながる支援の方法を検討している。(お財布に少額の小銭を入れて身の回りに置いておくだけで安心するなど)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙 のやり取りができるように支援をしている	実際には困難であるが、家族に生活の様子や日常的 な会話等を記録等を活用し、伝え支援している。		
52		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴 室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をま ねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がな いように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居 心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事に合った花や、タペストリーで雰囲気作りに努め、絵画や適切な明かりで、安心感が持てるよう工夫している。又、共同空間を温かみのある空間にするよう工夫している。		
53		〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利 用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工 夫をしている	本人の馴染みの物を持ってきてもらい、居室内で心地よく過ごせるよう工夫している。又、居間のソファーや 一人掛け椅子を利用し、心地よく一緒の時間を過ごせ るよう工夫している。		
54		〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談 しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし て、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしてい る	本人の馴染みの物を持ってきてもらい、居室内で心地よく過ごせるように配慮している。又、臥床時にも本人の好きなもの、馴染みの物が見えるように工夫している。		
55	/	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	テーブルや椅子の形や配置を工夫し、安全でかつ、自分の力を発揮して生活できるように心掛けている(状態や状況に合わせて配置を変える)。		